

二〇一七年度 前期日程 入学試験

国語問題

(全 17 ページ)

注意

- 一、受験番号・氏名および解答は定められたところに記入しなさい。
- 二、問題用紙に書きこんでも採点されません。
- 三、ゝや。「」などの記号は一字と数えます。

例
で
あ
る
。
「
だ
が
、

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①「さあ、行くぞ」

朝起きると、父の突然のドライブ宣言が出た。ドライブ宣言は、とても久しぶりに聞いた。家を建てるときは毎週末、このセリフが父の口から放たれたのだが、こっちに越してきてからの父は、近所を散策して古墳や土器を探すことにはまっけていて、休みの日の家族でのドライブは、ほとんどしなくなっていた。

古い城が建っていたこの一帯には、古墳が多く、土器もよく見つかるのだ。だから父の興味を中心は、遠い場所ではなくて、遠い昔の人々が土の中に残したものになってしまったのだった。最初のころは私たちも父の古墳探しにつき合うことがあったが、最近、自分だけの方が行きたいところにずんずん行けるとわかったのか、父一人で出掛けることの方が多かった。

しかし今日は、なぜか突然の「さあ、行くぞ」、つまり家族全員で出かけるぞ、である。

姉が冷静に、どこに行くの？ と父に訊くと、海だよ、と答えた。

「海!？」

姉と同時に同じ言葉が出た。

「実はこの間、糸島半島の先に一人で行ってきたんやけど、ものすごくきれいな海やったから、おまえたちにも見せてやらんといかん、と思つて。海水浴できる場所も、ちゃんとある」

「わーい。水着、水着。浮きぶくろ」

「やつぱり夏は、なんといつても、海やろう」

はしゃぎまわる私たちに母が、「水着の用意ができたら、こっち手伝つて」と台所から声をかけた。大急ぎで弁当

を作っていたのだ。

「まったく、お父さんの気まぐれには困ったもんやね」

②母はぶつぶつ言いながらも、うれしそうだった。チャボを飼わせてもらったかわりに、父の気まぐれドライブにつき合おうつてことなのかどうかはわからないが、おにぎりを握る母は、自然に鼻歌をうたっている。

母の機嫌のよさは、家全体の機嫌のよさになる。私と姉は、よろこんで弁当作りを手伝った。

おにぎりを握りながら、ふと思ひ立つて、ねえ、咲子ちゃんも呼んでもいい？ と母に提案した。

「咲子ちゃん、つてことは、三恵子ちゃんとゆうこちゃんもつて、ことね？」

おにぎりにぐるりと海苔を巻きながら、母が言った。

「よかよ」

「わあ、よかと!? 三恵子ちゃんたちも誘つて」姉が高い声で叫んだ。

「けど、そんなことになったら、もう一台車出さんといかんくなるなあ。川島さんちも急に海に行こうなんて、大丈夫かいな」

横から会話を聞いていた父がそう言うのと、川島さんがもしダメでも、ママ号があるわよ、と母は拳を握り、ポパイみたいに力こぶをつくるマネをした。

「免許取り立てのママ号は、おそろしか」

「なん言いいよ。優秀な成績で卒業した優良ドライバーやけん、大丈夫たい」

「じゃあじゃあ、咲子ちゃんたち、呼びにいつてよかと？」

「まずは電話して咲子ちゃんのお母さんに聞いてみるけん、ちょっと待つて」

お母さんは咲子ちゃんの家にかけて電話を切りながら、親指とひとさし指でOKの印のマルを作った。

「やったー！」

姉と同時に声が出た。

「ただし、咲子ちゃんのお母さんは、用事があつて今日は一緒には行けんそうやけん、やっぱりママ号の出動になるたい」

「わーい」

姉と二人で、^③ゴムまりのように跳ねながら坂道を下りていくと、家の前で三恵子ちゃんが夕子ちゃんをだっこして浮かない顔をしていた。

「今日は、お母さんもばあちゃんも出かけるけん、私がゆうこちゃんのお面倒をみるように言われとうと。だから、せつかく海に行つても一緒に遊べんかもしれん」

「ゆうこちゃんなら、とっこちゃんと遊んでもらうけん、大丈夫やない？」

「だって、とっこちゃんとゆうこちゃんを、まきちゃんのお母さんが一人でみるの、たいへんすぎるやん」

「え、そうなの……」

「こういう小さい子は、一人に一人、大人がちゃんとついとらんと、目を離れたスキにあつという間に海に入つたりして、えらいことになるつて、お母さんが……」

「大人なら、お父さんもおるし」

「かなちゃん、お父さんは……」

姉が私にだけ聞こえるように、かすれた声で言った。姉が言いたいことはすぐに察知した。父は、前に別のところで海水浴をしたとき、どんどん遠くまで泳いでいつて、一人で楽しんでいたことがある。子どものことをずっと気にかけて行動するなんて、きつとできない……。

「そう、やね、お父さんは、ちよつと……」

「だから、咲子ちゃんだけ行つてきたら。ゆうこちゃんと私は、家で留守番しとくよ……」

「えー!!」私と姉と咲子ちゃんが同時に声を出した。

「あらあ、おじょうさんたち、朝から元気な声ですこと」

おハルさん（注・近所に住んでいるおばあさん）が、畑の方から下りてきた。

^⑤「おハルさん！」

今度は、私と姉と咲子ちゃんと三恵子ちゃんの声が重なつた。

母の運転する車には、妹を抱いた姉と夕子ちゃんを抱いた三恵子ちゃんが乗り、父の運転する車には、私と咲子ちゃんとおハルさんが乗ることになった。

「まあ、海水浴に行くなんて、何年ぶりかしらねえ」

急遽参加することになったおハルさんは、目尻にたくさんのしわを寄せて、笑顔になった。おハルさんがいれば、夕子ちゃんを任せて安心、というこちら側の都合で誘つたのに、「まあほんとう？　こんなおばあさんが一緒にいてもいいのかしら。まあ、お招きいただけるなんて、うれしいわあ」と明るくこたえてくれたのだった。

おハルさんと遠くに行けることがうれしくてしかたがなくて、助手席をあげたまま、おハルさんはこっちこっち、と咲子ちゃんと二人で手招きをして、後部座席に咲子ちゃんと私でおハルさんを挟むように座つてもらつた。お父さんには、おハルさんが窮屈だろうとたしなめられてしまったけど、おハルさんは、「いえいえ、すてきなクッションにはさまれてるみたいで、気持ちいいですよ」とおだやかに言ってくれた。

「ねえねえ、おハルさんつて、泳げると？」プールバッグを胸に抱えて訊いた。

「実はね、ここに住んでいたころ、つまり私があなたたちくらいときには、ぜんぜん泳げなかったの。でもね、アメリカで泳ぎを覚えたの。海の近くの街に住んでいたから」

「アメリカの海！ 広いんやろうなあ」

咲子ちゃんがうっとりと言った。

「ええ、そりゃあ……。でも海ですもの、海同士はどこもつながっていて、みんな同じに広いのよ。でも、そうね、色が、違うわね、それぞれの場所で。うーん、そうねえ、言葉でうまく言えないけど、^⑦絶妙に色が違うのよ。人間の顔と同じように、違うのよ」

「へえ……」

おハルさんが少し目を細めた。遠くを見ているような透き通った瞳^{ひとみ}だった。^⑧おハルさんはその目で見た遠いアメリカの海を、今、思い出しているんだ、と思った。

「夏でなくてもね、泳げないときでも、時間ができるとね、よく海を見にいったわ。辛いことがあって、苦しくなっても、悲しくなっても、海を見ていると、不思議に全部流れていくように、気持ちがよくなったの」

「わかります！」

咲子ちゃんが目を見開いて言った。咲子ちゃんにも、海に流したくなるような辛いことや苦しいことってあるんだ、と思うと、急に咲子ちゃんがお姉さんに感じられてしまった。

「でもね、途中で自由に海に行くことはできなくなっただけ」

「どうしてですか？」

^⑨咲子ちゃんの眉が少し下がった。

「戦争が、始まっちゃったから。私たち日本人はアメリカの人たちにとっては、敵の国の人間になってしまったのよ。」

逃げ出せないような場所に集められて、自由に出歩いたりしなきゃいけなくなったのよ」

おハルさんは、一瞬^{いつしゆん}さびしそうに笑ってから、視線^{しせん}をはずした。^⑩訊いちゃいけないことを訊いてしまったような気がして、私もおハルさんから目をそらしてうつむいた。

「ふつうに海を見にいけるって、わたしたち、しあわせたいねえ」咲子ちゃんが言った。

^⑪「そうね、感謝^{かんしゃ}しないといけないわねえ。海に連れていってくれるかなちゃんのお父さんとお母さんに、海に行くことをゆるしてくれた咲子ちゃんのお父さんとお母さんに、そして、いつでも海に行けるようにしてくれるこの国と、そしてなによりも海自身に」

目を閉じた。目の奥^{おく}にある、いつか見た海の風景を呼び起こしてみる。とても青くてきれいで、きらきら光っている。ありがとう海、と心の中でつぶやいた。

記憶^{きおく}の海のことを考えているうちに、本物の海に着いた。白い砂の海岸から、薄い水色の透明な浅瀬^{あさせ}が続き、沖^{おき}には青緑色の海が広がっていた。風がそよそよ吹いて、海の表面は遠くの方まできらきら輝^{かがや}いている。

「こんなに透きとおつとる海、初めて見たー！」

姉が高い声で叫んだ。私も、うん、うん、と激しくうなずいた。

「日本の海やないみたいー」

「日本の海やないところ、かなちゃん行ったことあると？」

咲子ちゃんにびっくりした声で訊かれた。

「なかよ、なかー。あるわけ、ないやん」

会話を聞いていた母が、うしろから笑いながら答えていた。

「でも、かなちゃんの言いたいこと、わかるわ。こんなきれいか海、お母さんも初めて見た気がする」

「な、来てよかったやろう？」

父が、ゴムボートをふくらますポンプを足で押しながら、ほこらしげに言った。その足を動かすたびに、黄色いビニールが、空の雲みたいにくくむくとふくらんでいく。妹が興奮してふくらみかけのそれに飛びついた。

「おい、とっこー、そんなことすると、またしぼんでしまうやないかー」

父が真っ赤な顔をして、妹の体重にまけじと勢いをつけてポンプを押した。三恵子ちゃんに抱かれた夕子ちゃんも、両手をのばしてきいきいと言を出し、妹に加勢する気まんまんである。三恵子ちゃんがついに振りきられるように夕子ちゃんを抱き下ろすと、妹の横で、黄色いできかけのゴムボートのへりに、ばーんと飛び込んだ。

^⑫小さな二人の猛攻撃を受けて、父の必死のポンプ作業は続いたが、なかなか完成しそうにない。小学生姉組の私たち四人は、遠巻きにそれを見ながらおかしくてしかたなくて、ゲラゲラ笑ってしまった。

（東直子『いと森の家』 出題の都合により変更したところがある）

問 1 — 線①「さあ、行くぞ」とありますが、父のこのことはどういうことを意味していますか、二十字以内で答えなさい。

問 2 — 線②「母はぶつぶつ言いながらも、うれしそうだった」とありますが、どうして母はうれしそうにしていたのですか、答えなさい。

問 3 — 線③「ゴムまりのように跳ねながら坂道を下りていく」とありますが、ここには二人のどのような気持ちが表れていますか、説明しなさい。

問 4 — 線④「家の前で三恵子ちゃんが夕子ちゃんをだっこして浮かない顔をしていた」とありますが、「浮かない顔をしていた」のはなぜですか、理由を四十字以内で答えなさい。

問 5 — 線⑤『おハルさん！』 今度は、私と姉と咲子ちゃんと三恵子ちゃんの声が重なった」とありますが、このとき四人はどのようなことを思いついたと考えられますか、説明しなさい。

問6 — 線⑥「たしなめられて」、⑦「絶妙に」の本文中の意味として最も適切なものをそれぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

⑥「たしなめられて」

⑦「絶妙に」

- | | | | |
|---|-----------------|---|------------|
| ア | きつい口調で責められて | ア | ほんのりとあいまいに |
| イ | おだやかに言葉で注意されて | イ | 少しだけあきらかに |
| ウ | 遠まわしに子どもあつかいされて | ウ | なんとなくほんやりと |
| エ | はっきりと軽べつされて | エ | ちよいどいい具合に |

問7 — 線⑧「おハルさんはその目で見た遠いアメリカの海を、今、思い出しているんだ、と思った」とありますが、おハルさんにとって海はどのようなものであったのですか、答えなさい。

問8 — 線⑨「咲子ちゃんの眉が少し下がった」とありますが、咲子ちゃんがこのような表情をした理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たちもおハルさんのように自由に海に行けなくなってしまおうという予感がして、恐ろしくなったから。
- イ 自由に海に行けなくなってしまったおハルさんのことを思うと、かわいそうでしかたなかったから。
- ウ おハルさんがなぜ自由に海に行けなくなってしまったのか、不思議に思いながらも心配したから。
- エ 自由に海に行くことができないおハルさんを、無理やり海に誘ったことに、うしろめたさを感じたから。

問9 — 線⑩「訊いちゃいけないことを訊いてしまったような気がして、私もおハルさんから目をそらしてうつむいた」とありますが、ここから読み取れる「私」の心情を、「訊いちゃいけないこと」の内容を明らかにして説明しなさい。

問10 — 線⑪「そうね、感謝しないといけないわねえ。海に連れていつてくれるかなちゃんのお父さんとお母さんに、海に行くことをゆるしてくれた咲子ちゃんのお父さんとお母さんに、そして、いつでも海に行けるようにしてくれるこの国と、そしてなによりも海自身に」とありますが、おハルさんの気持ちを説明したものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の家族や自由までもうばってしまった戦争に対してそれを憎み、許しがたいと感じている。
- イ 戦争で不自由な思いをしたことから、子どもたちには平和のありがたさを感じてほしいと願っている。
- ウ 自由に海に行けない人もいるのに、いつでも海に行けるということに満足しないでほしいと考えている。
- エ 平和な世の中で常に親の愛情をうけている子どもたちに、それをありがたがってほしいと思っている。

問11 — 線⑫「小さな二人」とは具体的にだれとだれを指していますか。本文中から名前をぬき出して答えなさい。

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「世界で一番わかりにくいのは、日本語とアラビア語だ」と外国人はこんなふう^㉑にモンクを言うらしい。まあ、たしかに日本語というのはかなり変わった言語体系ではあります。

じつは、日本以外の世界に住んでいるあらかたの人びとはバイリンガル（二つの言語を自由に使う能力がある人）だともいえます。ひとつに限らずいろんな言語を話せることが多い。たとえばアメリカだったら、英語だけじゃなく、むしろスペイン語のほうが通用する地域というのもある。同じように、どの国でもたいてい二カ国語くらいは通用することが多い。

それに引き換え、日本人はモノリンガル（言語を一つのみ習得している人）だといえるでしょう。日本語以外の言語が通用する地域というのは、まずありえない。日本語というのは言葉と国籍^{こくせき}が直結した、いわば体質的な言語だということです。だから外国語を話すことが下手なんじゃないかと言われてしまう。

^①その考えはたしかに成り立つ。ただ私は、逆にこんなふうにも思うんです。「日本語ほどバイリンガルな言葉はないのかもしれない」と。^②

日本語には「かな」と「漢字」がありますよね。この二つは、姿も体系もまったく異なっている。「かな」から「漢字」へ、「漢字」から「かな」へ、私たち日本人はそのひとつひとつの切り替え^かを、読むときはばかりでなく話すときも瞬時^{しゅんじ}にこなしているんです。パソコンだったらこの変換^{へんかん}は機械がやってくれるわけだけど、日常的なやりとりではそうはいかない。その膨大な量の変換を常^{つね}に頭の中で行うことになる。そりゃあ疲れる^{つか}はずですよね。

そのぶん、翻訳^{ほんやく}は非常にうまい。それから、外国から入ってきた技術を理解して覚えるのも大層うまいといえます。明治維新^{いしん}のとき、西洋文明の流入と同時に、それまでの日本語の概念^{がいねん}になかった言葉も大量に入ってきました。日

本人は、それらに何とか漢字をあてて訳して使ったわけです。たとえば「認識」とか「観念」だとかが代表的な例ですね。それを明治の初めのうちに見事にやってのけた。これは、皆さんが想像している以上に高度な作業なんですよ。

ちなみに今の中国語の中で、政治にかかわるものなど公的に使う言葉の多くは、日本が明治の頃^{ころ}につくった造語を適用しています。それこそ「政治」や「経済」、「民主主義」や「共産主義」といった言葉が良い例です。いうなれば、言葉の I ^㉒ですね。もともと中国で生まれた漢字が、日本で進化を遂^とげ、新しい姿で中国に流入している。これも大変おもしろいゲンシヨウだといえるでしょう。

こんなふう^㉓に、かなと漢字という、まったく異なった姿のものを同時に使いこなしてきたのが日本人の特殊性^{とくしゅせい}であり特長ともいえるでしょう。これに対し、合理化が進む現代においては「こんな煩わしいことはやめろ、いつそ標準語を英語にしまえ」という考え方もあります。実際、すでに社員全員に英語をしゃべらせている会社もあるくらいです。たしかに、外国人との伝達の際にはメリットがあるでしょう。しかし母国語を失った国というのはじつに惨^{みじ}めなものです。

^③伝統というのは、まさしく「言葉」なんです。その言葉を奪^{うば}われてしまうということは、足場がない状態とまったく同じ。立つにも歩くにも走るにも、ただ外国の模倣^{もほう}にたよることになる。そもそも日本がこれまでの長い歴史の中で築^{きず}いてきた伝統は、西洋の伝統とはずいぶん異なっています。その基礎^{きそ}を捨て去って、今さらまるごと西洋から借りなければならいなんて、人間の文化にとってこれほど悲惨なことはない。

加えて、西洋の伝統からきた文明や技術の発展は、今や行き詰まり^{づまり}を迎えつつあるんです。年金問題も、核^{かく}の問題も、すべて西洋で生まれた考え方に由来しています。日本は現代社会を形作るうえで、その文明を借りてきたはいけれど、今になって行き詰まってしまった。そして残念なことに、西洋の文明の力では、この行き詰まり^{づまり}の是正^{ぜいせい}がな

かなかできない。でも、東洋の文明——さらにいえば日本独自の伝統なら、その行き詰まりをやわらげるか、是正する力になるかもしれない。そう考えると、伝統というのはそうカンタンには手放してはいけないものだということがわかるでしょう。

ところが、日本語はどうもはっきりしない、意味をしつかり限定していないとヒハンされる。これは外国人の多くが感じていることであると同時に、外国語のできる日本人も同様に思っていることなのです。

たしかに日本語という言語は、いくつかの難点も持っています。いふなれば、非常に悠長な言語です。表現した内容を強く限定して投げつけることが上手でない。それに、何か危機が起こったときに発するケイコクの言葉の力が弱い。他の国の言語に比べて命令形がそれほど発達していない。その命令形が動かす心情自体も強くない。そういう意味では、大変やわらかな言語ともいえます。

それから先にいったように、漢字をかなに、かなを漢字に、頭の中で変換しながら話したり聞いたりしていることの弊害も挙げられるでしょう。もちろん咄嗟のことだから、僕らは意識していない。だけど大変な危機に瀕したとき、ひと呼吸、ふた呼吸遅れる恐れはある。

その一方で、限定ばかりしていくと、こぼれ落ちてしまう事柄もたくさんある。日本語というのは限定しない代わりに、ふわふわと漂うあいまいな事柄も上手にすくいとることができる。ある程度の広がりをもっている言葉を、その広がりそのまま捉えることが可能な言語なんです。

一般的に外国の言葉を使うのが下手なのは、日本人と韓国人だと言われています。でも日本人と比べれば、韓国人の方がよほど上手でしょう。そう言われる理由の一つに、日本語には「子音の種類が少ない」という特徴が挙げられるそうです。つまり、子音に対する聴覚が発達していない。だからその土地に送られて二カ月―三カ月、あるいは半年くらい経ないと、そこで使われている言葉を聞き取るだけの聴覚が身に付かないんだそうです。まあ、たしかに

そういう面はあるでしょう。でも、問題はもっと根本的な部分に存在しているような気がします。

私たちの使う漢字というのは表意文字です。昔々にさかのばれば、元は象形文字なんですよ。漢字の持つ意味はたいてい広い。私たち日本人は、その意味の深さをたった一文字の中に含んで使っているわけです。つまり、ある意味の広がり、そっくりそのまま捉えて言葉の中に組み込む能力が日本人にはある。無論、漢字というのは中国からのものですよね。しかし、現在の中国語は、近代日本語の構造をだいぶ受けて、かなり a 化しているそうです。むしろ日本語のほうがまだ b にこだわっている。

そもそも日本人には、意味を一つだけに限定して、単純 c に論旨を組み立てるといふ習慣が薄かったともいえる。そういう技術は異国の人たちと交わるうちに学んで教えられたことで、時代が進むにつれてずいぶん慣れたものの、本来はやっぱり、苦手なのかもしれない。

ある事柄を、ある広がりそのままに表現して伝える。聞く方も、ある広がりそのままに聞いて答える。あるいは、その広がりを自分の中に留める。そういうやりとりのほうが、長い歴史の中で培ってきた日本人のものと性の分なかな、という気がします。

しかしながら時代が移り変わり、ますます国際化が進むにつれて、言葉のあり方も変わってきている。もともとの性分と、後から流入した使い方との間で、現代の僕らの言葉は分裂しているんですよ。これからは、少し悲しいことではあるけれど、伝統をそのまま続けるのではなくて、今の時代に合ったかたちで言葉を使っていくことになると思います。とはいえ、むやみに変えればいいわけでもない。よその国はどうなっているのか、世界ではどういう形が求められるのか考えながら、日本語の意義を再認識することが必要になってくる。

(古井由吉『言葉について』出題の都合により変更したところがある)

問 1 ㉠㉡のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 ①「その考え」とありますが、どのような考えですか、四十五字以内で説明しなさい。

問 3 ②「日本語ほどバイリンガルな言葉はないのかもしれない」とありますが、筆者はどのような点からそう考えたのですか、「点」に続くように本文中から三十五字以内で探し、ぬき出して答えなさい。

問 4 I に入ることばとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 合理化 イ 特殊性 ウ 再認識 エ 逆輸入

問 5 ③「伝統というのは、まさしく『言葉』なんです」とありますが、それはどういうことですか、次のア～エから最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 日本がこれまで築いてきた言葉の伝統は、西洋のものとは大きく違うのだということ
イ 言葉は、その国の歴史が映し出されるものであり国の根底をなすものであるということ
ウ 言葉は、積極的に変化を進めることによって、その国の伝統が形成されていくということ
エ 日本が伝統を守っていくために、日本語や英語にもっと注目する必要があるということ

問 6 ④「いくつかの難点」とありますが、筆者がここで述べている難点として適切なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一刻を争うとき、その差しせまった状況^{じようきょう}を知らせる言葉自体の持つている力が弱い点
イ かなや漢字を頭で変換するのに時間がかかり、危機の際、遅れてしまう危険性がある点
ウ 命令形の発達^{はつたつ}が他の言語に比べて進んでおらず、言われた側にも強さが伝わりにくい点
エ 伝えたい内容の範囲^{はんい}をしつかり明確に定めて相手にいうことが難しい点
オ 危機の時には速さを求めるあまり言葉があいまいになってしまうおそれがある点

問 7 a、b に入ることばとして正しい組み合わせはどれですか、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア a 表音 b 表音
イ a 表意 b 表意
ウ a 表音 b 表意
エ a 表意 b 表音

問 8 単純 c が、「筋道や内容がはっきりしていてわかりやすいこと」という意味の四字熟語になるように

c にあてはまる漢字二字を答えなさい。

問 9 — ⑤ 「本来はやっぱり、苦手なのかもしれない」とありますが、なぜ苦手なのですか、本文中のことを使って六十字以内で説明しなさい。

問 10 筆者の言いたいこととして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 国際化の進む現在、世界で求められる言葉は何かを考え、積極的に他言語を取り入れていく必要がある。
- イ 時代の移り変わりによって国際化が進むにつれて、世界における日本語の特徴が注目される必要がある。
- ウ これからは日本語の意義を再認識し他言語の流入を可能な範囲で規制していくことも考える必要がある。
- エ 国際化の進む世界の状況を見ながら、日本語の価値を守りつつ、時代にあう形を考えていく必要がある。

二〇一七年度

前期日程

入学試験解答用紙

国語

受 験 番 号

氏

名

○

○

問 1

問
2

[illegible]

問
5

問 6

問
8

問 10	
問 11	と

問 1	⑥ モンク
	⑦ ゲンシヨウ
	⑧ カンタン
	⑨ ヒハン
	⑩ ケイコク

[illegible][illegible]

問 4 

問 5 

問 6 

問 7 

問 8 

[illegible]

問
10

合 計

采点栏